

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22
 防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp
 中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp
 情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp
 ☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

ホット通信

「日本人離れ」している僕が、知らない人に声をかけられるときの第一声は大抵「ごー」である。

僕もアホではないので、相手が聞きたがっていることはよく分かっている。でも、少しばかり人間ができていない僕の答えは一定しない。実にばらばらである。質問した相

以んたのやまぐち日記

12

手の表情をチラッと見たり、僕の気分の起伏も大いに関係したりする。

「んた」は、「んた」ですわ」とその時点での場所を言ったりすることがあったり、さらに余裕のないときは「ちょっとそこ」とか「近所」とか、後から冷静に考えると少なくとも相手からして頓珍漢な返事をしていること

僕探し

くせで再認識する「己」

に気づく。

でも最近になって事態が変わってきた。それは、相手が「己」なのだろうか。その己のこのころではなく、むしろ僕の側に原因がある。実は帰化をしたのだ。

「帰って化ける」という二

もないと思う。

文字はどう意味か、悩んだ自分が懐かしい。日本に来た十八年目の誕生日に法務局に紋付き袴で日本国籍をもらいにいった。「外国人が日本人になる瞬間を見てやろう」と、教え子がたくさん駆けつけてくれた。でも、誰一人として国籍取得の前と後の僕の変化に気づいた学生はいない。

「近代国家の概念ができて何百年の歴史しかないのに、国の数だつて減ったり増えたりしている。こんな新しくして、いいかげん(不安定)な概念に「己」を求めることに勇気がいるのかと思うときがあった。僕

は、十七歳まで過ごしたスリランカの食事は比較的辛い内容が多かった。発汗作用があるのだから、自分の毛穴が開いていたのだと推測される。それが、最近の僕となると、日本の薄味になれてしまっている。

学生のころすでにグルメを紹介する番組の司会をやっているのだから、自分でも不思議としか言いがたい。いつの間にか日本の薄味が基準になって、味が濃いだのと料理人に対して失礼を発していることもある。

薄味では頭の毛穴はその役割を求められない。薄味なものを食べているときに休んでいる毛穴が、辛いものを口の中に入れた瞬間目を覚ます。そうです。これは、作った

覚えもない国の概念より一番しっくりくる僕のアイデンティティなのです。

(県立天國国際文化学部助教授 J.A.T.D.にゃんた)



イラスト・石井彩子